

総 括 質 疑 並 び に 一 般 質 問 (個 人 質 問)

【質問日】 令和8年9月4日 (金)

質問 順位	質 問 者	質 問 事 項
1	森 満 晃	1 第3次総合計画前期基本計画の現状と今後の予定について (1) 令和7年度にスタートした前期基本計画は、令和9年度で折り返しの年度になる。現在の進捗状況を示せ。 (2) 同計画の決定以降に変化のあった「現状・課題」はないか。あるいは「施策の方向性」を見直す必要があるものはないか。 (3) 第3次総合計画において「実施計画」が改めて位置付けられた。市民や市議会にとって大型事業の向こう3箇年の展開方針が理解しやすくなると期待しているが、上手く生かされているか。 (4) ゾーニングビジョンのうち、交通、買い物支援の進捗状況を示せ。 (5) 薩摩川内市西部エリアにおいては川内港、AIデータセンターの進出、資源循環産業の立地による経済活性化が期待できる一方、定住人口の減少対策も必要と考えている。同エリアにおける経済活性化の現在の動向と若い世代の定住対策の必要性を問う。 2 国県に対する要望活動の現状とその成果、今後の方向性について (1) 田中市政における国県への要望活動の位置付けと活動状況を示せ。 (2) その成果をどのように捉えているか。 (3) 一般災害における防災体制の充実について今後の課題を示せ。 (4) 原子力発電所周辺の緊急避難・輸送道路の現状と課題を示せ。 3 本市のスポーツ振興について (1) 本市のスポーツ合宿誘致における強みをどのように分析しているか。 (2) 民間企業との連携により、スポーツコミッションを中心とした誘致体制や観客動員数の増加など、今後どのように強化していくのか伺う。 (3) 大会運営に欠かせない宿泊施設の確保と近隣自治体との連携について、阿久根市、いちき串木野市、さつま町など近隣自治体の宿泊施設を含めた広域的な宿泊確保について、どのような連携・協議を行っているか。 (4) 本市のスポーツ振興の基本的な考え方について ア スポーツ振興の大きなキーワードの一つは「健康」である。市民の健康づくりや子どもの健全な成長、地域コミュニティの形成など、幅広い効果を持つ本市のスポーツ振興をどのように位置付け、今後どのような方向を目指していくか。 イ 子どもたちの競技スポーツについて、競技力の向上だけでなく、子ども自身がスポーツを楽しみ、心身ともに健全に成長できる環境をつくることが重要である。指導者、保護者、学校、地域など、大人はどのような役割を担うべきと考えているか。また、今後どのような環境づくりを進めるか。 ウ スポーツ振興においては、「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の環境づくりも重要である。子どもたちの大会を家族や地域の方が観戦しやすい環境、さらには市民がトップレベルの競技を身近に観戦できる環境について、今後の展開を伺う。

2	佐 多 貴 文	・ 令和8年薩摩川内市大雨災害を踏まえた防災・減災対策について (1) 大雨災害の被害状況と検証について - ア 市が把握している住家、非住家、道路、河川、水路、公共施設等の被害の件数と被害状況は - イ 復旧についてどのようなスケジュールで進められているか。 - ウ 今回の被害について、市としてどのような課題があったと認識しているか。 (2) 初動対応と情報伝達について - ア 市はどのような体制で初動対応を行ったのか。 - イ また、その対応について市としてどのように評価しているか。 - ウ 防災行政無線やSNS、ホームページ、自治会を通じてどのような内容をどのタイミングで発信したのか。 - エ また、その情報が市民に十分に届いたのか、特に高齢者など情報を受け取りにくい方への情報伝達について課題と今後の改善策は (3) 地域の住民説明会について - ア 田崎、石神、草原、隈之城の各自治会で開催された説明会等において、住民からどのような意見や要望があったのか。 - イ 市として、それらをどのように整理しているか。 - ウ 住民の声を今後の河川、水路、排水対策、避難体制、情報伝達等にどのように反映させるのか。 (4) コンサルタントによる検証について - ア コンサルタントによる検証はいつから開始される予定か。また、具体的に何を検証するのか。 - イ 対象地域はどこなのか。関連する河川、水路、排水施設まで含めて検証するのか。 - ウ さらに、検証結果をどのように今後の防災・減災につなげるのか。 (5) 田崎・石神地区の臨時ポンプについて - ア 田崎・石神地区の臨時ポンプを1台から2台へ増設する判断に至った経緯は。また、増設することによって排水能力はどの程度向上すると見込んでたのか。 - イ さらに、コンサルタントによる検証の中で、現在の排水能力が将来の大雨に対して十分なのか検証する考えがあるのか。 (6) 災害ごみの出し方について - ア 市はいつ、どのような方法で市民へ周知されたか。また、自治会のごみ収集所への搬出が可能となった時期が災害発生から数日後となった経緯は - イ さらに今後、どこへ出すのか、何を出せるのか、どのように分別するのか、収集はいつ行うのか、自力で運べない方はどうするのかという情報を、速やかに市民へ周知する仕組みを構築する考えはないか。 (7) 地域ごとの災害ごみ仮置場について - ア 平時から候補地を検討し、災害発生時に開設できる仕組みを構築する考えはないか。 - イ 高齢者など自力で災害ごみを運搬できない被災者への運搬支援についても検討する考えがあるのか。 (8) 災害調査と被災者支援について ・ 災害調査と被災者支援を一体的に行うワンストップ型の支援体制を
---	---------	---

		構築する考えはないか。 (9) 社会福祉協議会と災害ボランティアについて ア 社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げて活動された中で、市はどのように情報提供や人的支援等を行ったのか。 イ 今回の活動においてどのような課題が見えたのか。 ウ 今後、市と社会福祉協議会が平時から役割分担や情報共有の方法を明確にし、災害発生時には市がより積極的に伴走する体制を構築する考えはないか。 (10) 復旧から恒久的な防災・減災対策について ア 今回のコンサルタントによる検証結果を今後の予算編成や具体的な防災・減災事業にどのように反映するのか。 イ 検証の結果、恒久的な浸水対策が必要となった場合、市として具体的な整備を進める考えがあるのか。 (11) 今後の被災者支援等について ア 今回の災害を教訓として、被災者支援、災害ごみ対策、ボランティア支援、浸水対策まで行政と地域、社会福祉協議会等が一体となって被災者を支える仕組みを、今後さらに強化していく考えがあるのか、市長に伺う。 イ 今後、実施するコンサルタントによる検証について、単なる調査・報告で終わらせることなく、必要な恒久的対策の実施、予算化、住民への説明までつなげていく決意があるのか、市長に伺う。
3	山 平 達 也	1 公立小・中学校における交通安全対策について (1) 公立小・中学校における交通安全教育の取組の現状はどのようになっているか。 (2) 本市における児童・生徒に係る事故件数の過去5年間の推移と年代毎の推移・割合はどのようになっているか。 (3) 自転車乗用中の交通ルールに係る指導、講習の現状はどのようになっているか。 (4) 自転車損害賠償責任保険等の加入の現状はどのようになっているか。 (5) 横断歩道・歩道・側溝など危険な箇所が多くあると思うが、通学路等の安全確保に係る調査・点検であがってきた箇所の現状はどのようになっているか。 2 生活保護の現状について (1) 本市における生活保護の相談件数、申請件数、及び受給者の世帯の種類の過去5年間の推移はどのようになっているか。 (2) 扶養義務者調査において、扶養義務者からの扶養の件数はどのようになっているか。 (3) 本市における不正受給の原因別の件数と不正受給の金額はどのようになっているか。 (4) 不正受給の防止及び早期発見のための取組の現状はどのようになっているか。 (5) 今後の生活保護に係る市としての方針はどのように考えるか。 3 管理河川、管理側溝の現状について (1) 本市が管理している河川の数とその総延長、管理側溝の総延長はどのようになっているか。 (2) 管理河川及び管理側溝の維持・管理の現状はどのようになっているか。

		(3) 6月24日の集中豪雨により被害が確認されているが、本市の管理河川の被害件数とその後の対応はどのようになっているか。あわせて、水田・畑等の被害件数とその後の対応を伺う。 (4) 河川・市道の維持・管理を包括的に民間に委託することは考えられないか。
4	松野信作	1 木造住宅の耐震診断・改修工事について (1) 耐震診断・改修工事の過去三年間の実績は (2) 市民及び建築業者への周知はどのようになされているか。 2 限之城ため池について ・ ため池を、貯水池や遊水池として活用整備できないか。 3 向田ポンプ場の整備について (1) 建築年数と耐用年数は (2) 耐震診断・耐震補強はなされているか。 (3) ポンプを含めたポンプ場の整備計画について伺う。 4 水門管理人・ポンプ運転者について (1) 建設業者が管理人・運転者になっている箇所数は (2) 建設業者には入札における加点はできないか。 (3) ポンプ等のトラブル対応を専門業者に委託する考えはないか。 5 ポンプの自動運転化について ・ 自動運転化を検討できないか。 6 限之城川流域の坪塚自治会内における内水対策について (1) 令和8年度内の整備計画は (2) ポンプ周辺の重要な水路等の維持管理の徹底について伺う。 7 減災対策について ・ 市民の減災意識向上への取組について伺う。 8 災害時における乳児への対応について (1) 現在の避難はどのような対応か。 (2) 乳児を対象とする備蓄資材はどのようなものがあるか。 (3) 関係課が連携し、乳児が安心して避難できる体制を検討できないか。
5	犬井美香	1 休日における部活動の地域展開と生徒一人一人の多様な活動機会について (1) これまでの取組及び薩摩川内市部活動地域展開方針等審議会からの答申を踏まえ、本市が目指す部活動の地域展開の方向性と、その先にどのような生徒の活動環境を実現しようとしているのか、教育長に伺う。 (2) これまでのアンケート等で把握した意見やニーズをどのように捉え、今後の方針や具体的な取組に反映するのか。また、継続的に意見を聴く仕組みをどのように構築していくのか考えを伺う。 (3) 生徒との意見交換やワークショップなど、生徒自身が活動の在り方を考え、提案できるような仕組みについて検討する考えはないか。 (4) 地域や学校規模、家庭の経済状況、送迎の可否などに関わらず、生徒の活動機会を確保するため、地域人材や関係団体等との連携、指導者の確保、費用負担及び移動手段等の課題にどのように対応していくのか考えを伺う。 (5) 学校教育の公共性を踏まえ、全ての生徒に多様な活動や体験の機会を創出していくことについて、どのように考えるか、教育長に伺う。 (6) 部活動の地域展開を契機として、誰一人取り残すことなく、生徒一人

	一人の「やってみたい」を支える活動環境を地域全体でつくることの必要性を感じるが、教育長の考えを伺う。 2 防災・減災のまちづくりと本庁舎の今後について (1) 立地適正化計画における都市機能誘導区域及び居住誘導区域について、防災指針策定後も浸水リスクを有する区域が含まれている現状をどのように認識し、防災・減災とまちづくりを両立していくのか考えを伺う。 (2) 市街地における内水氾濫の現状と課題をどのように認識しているか。また、都市機能誘導区域及び居住誘導区域を含め、今後の内水対策をどのように進めるのか考えを伺う。 (3) 令和8年熊本地震による本庁舎の被害をどのように検証し、建物の安全性及び災害対策本部としての機能継続についてどのように評価しているか。 (4) 本庁舎の所在地について、洪水、内水氾濫、地震時の液状化等の災害リスクをどのように把握し、複合的な災害が発生した場合においても庁舎機能を維持するため、どのような対策を講じるのか考えを伺う。 (5) 本庁舎について、改修を行いながら今後も長期にわたり使用する方針としているが、今回の地震被害や災害リスクを踏まえ、将来の在り方について検討を始める考えはないか、市長に伺う。 3 大規模災害時における避難所の電源確保と防災機能の強化について (1) 大規模災害等により長時間の停電が発生した場合、指定避難所における電源確保をどのように想定しているか。また、現在配備している発電機等の配置状況及び運搬・燃料確保を含めた運用体制について伺う。 (2) 大規模災害時における現在の電源供給体制の課題をどのように認識しているか。 (3) 長期停電時においても、照明、情報通信機器、携帯電話の充電、医療・福祉機器等に必要な最低限の電力を確保できるよう、避難所ごとに一定の非常用電源を確保するなど、電源の分散化・多重化を進める考えはないか。 (4) 近年の猛暑を踏まえ、大規模災害時の避難所における熱中症対策及び空調機能の確保について、現状と課題をどのように認識しているか。 (5) 災害時のエネルギー源を多重化する観点から、LPガスを活用した非常用発電設備やGHP等の空調設備について、指定避難所や防災拠点への計画的な導入を検討する考えはないか。
--	--